

「オンライン・ラーニングの発展と教室内の教育とのハーモニー」 PT 2

研究代表者	メベッド	シェリフ	(法学部)
共同研究者	今村 潔		(経営学部)
	ホワイト	ショーン・アラン	(経営学部)
	ロザーティ	サイモン	(経済学部)

本 FD プロジェクトは 2021 年から継続しており、オンラインのアプリなどによってより良い英語コミュニケーションの授業を行うための研究である。2020 年からのコロナ禍のため、多くの授業がオンラインとなった。その経験から学んだオンライン教育の方法を振り返って、今後役立つオンライン・システムを見つけ出すことがメインの目的であった。さらに、コンピュータをこれからどのように英語教育において活躍させるかについて研究することが目的でもある。2021 年度から、オンラインの授業が少なくなったが、ロックダウン時に使っていたアプリの中から、通常の教室内の授業または課題や宿題などにおいて、役立つアプリを識別し、今後有益に使用できるアプリを選別したのち、システム化することを目指していた。

2021 年度の FD プロジェクトにおいて新しいツール（アプリなど）を発見するという以外、もう一つの試みは、オンラインのツールによって、英語コミュニケーションコースの参加者の英語能力の変動を測定することであった。これはコロナ禍以前からの継続課題であり、オンラインツールによって解決方法の一つを見出せるのではないかと考えていた。先に触れたように、コロナ禍以前、英語コミュニケーションコースに入った時点から、卒業する時点までの約 2.5 年間に学生のレベルが伸びたか、またはどれくらい上達したかということを確認したいことである。例えば学生の能力が思うように上がっていないことを確認した場合、カリキュラムの調整をすることもできる。逆に英語能力が上がっていることを証明した場合には、現在のコースの方針を全般的に維持するということが考えられる。しかし、通常の検定テストは、リスニングとリーディングという二つの技能を中心として学生の能力を計ることが圧倒的に多い。それに、主流の英語検定である TOEIC はビジネス用語が多く、ビジネス英語テストとも言えるようである。それに対して、英語コミュニケーションコースの授業の多くは、会話とディスカッション、プレゼンテ

ーションが多く、アカデミック的学習で社会問題、映画や小説の内容、歴史や文化の学習がメインであるため、TOEICなどのビジネスを中心とする検定やリーディングという技能を主に扱う検定は、当プログラムの成果の有無を計ることができないと思われる。

逆に、スピーキングを中心というテストを取り入れることによって、本コースの学習成果を確認する可能性が比較的にあるのではないかと思われる。例えば、TOEICスピーキングとライティングのテストなら適性があるかもしれないが、検定料は一人当たり1万円を超して予算的には難しい。それと違ってオンラインで行われるCASEC Speakingというテストは一人当たり約3,000円というリーズナブルな値段で、各々の学生が家で、1時間以内で受験できるテストである。このテストの採点は客観的に学生の英語能力を評価できるアメリカにいるネイティブスピーカーの英語教師が行なっている。

2021年度のプロジェクトで受験した学生の結果をもらったが、問題は1年後そのスコアの変動という点にあり、2022年度に同じ学生にもう一度受験し、その結果が今年度のプロジェクトの主なデータである。このデータでは、総合の伸長さもあったが、それ以外、細かく分別された能力の指標も各学生の成績表に出ている。それぞれの指標は、「発音」、「流暢さ」、「語彙力」、「文法力」、「自分のこと」、「社会的場面」、「自分の意見を述べる」という7つである。それぞれの指標のカテゴリにはA, B, Cが与えられる。また総合スコアは0-200点というように評価される。2021年度に55名の学生がテストを受けた。そして今年37名の学生がテストを受けた。2022年度のテスト未受験の学生の中には、留学中で受験できなかった学生や、就職活動などで忙しいということや、様々な事情で2回目のテストを受けられなかった学生がいた。

ここからCASECスピーキングテストのスコアのデータを紹介する。まず、2021年度の総合スコアは平均152点であった。（両方のテストを受けた学生のみ）同じ被験者の一年後のテスト（2022年度）のスコアが平均177点であった。つまり25点の上昇である。また、一年目で200点満点を取った学生は1名であったのに対して、2022年度に行われたテストでは、9名も200点満点を取った。もちろんいい話ばかりではない。37名中8名のスコアが下がった。下がった参加者の下り幅の平均は約19点であった。伸びない学生は8名いたが、参加者の全般を見て、学生のスピーキング能力は、CASECのオンライン・スピーキングテストで力強い伸長を示していることが

言えるに違いない。また「発音」や「流暢さ」などの指標を見ると、多くの学生は発音の科目で「A」評価をとった。その他の指標にも「A」が多かったが、その中「B」評価が目立つカテゴリーもあった。特に「B」評価が多かったのは「文法力」である。このような情報を把握することによって今後の授業で、文法力を上げる対策を取るべきであるということが明確である。高等教育では、文法は中心的に教えられているので、大学生には教える必要がそれほどあると思えなかったが、やはり続けて学習させる必要があるという結果となった。

また CASEC のテストは金額的に手頃という長所があるが、問題点として CEFR (Common European Framework of Reference of Languages) のレベル別 (A1-A2-B1-B2-C1-C2) の中から、下の A1 から B2 までの幅が検定の評価となる。つまり B2 以上のレベルはよく計ることができない。そのため 2022 年度に行われたテストでは 37 名中 9 名は 200 点満点を取得した。上級レベルの学生がこれから増えるとしたら、より精密的にレベルを計ることができるオンラインテストが必要である。しかし今回の目的を果たすには、データが十分現れていると思われる。重要で有意義なデータを得ることができた。

今年度の FD プロジェクトの予算は CASEC の受験料で殆ど費やした。それ以外は教員が使うアプリのサブスクリプションを購入した。特に去年から使っている ZENGENGO というアプリは宿題や課題に便利である。スピーキングの練習を中心とする宿題を可能にするアプリである。2021 年度の報告書で説明したように ZENGENGO を使って課題を出すことができる。例えば教員がテーマを決定し、学生が家で ZENGENGO のアプリで自分の答えとして音声を録音する。そして音声を自分で聞き直ししながらタイプをして文字化する。アプリは文法のミス指定し学生がそのミスから学べ、そのまま提出することができる。または ZENGENGO を使って学生にライティングの課題を提出できる。ZENGENGO を使ってレポート提出する場合、教員はペースト機能をオフにできる。そうするとコピーペーストの盗作行為が難しくなる。もちろん打ち直しはできるが、手間が掛かるという点でカンニング防止に役立つと思われる。特に 2022 年の秋に突然現れた無料の AI を用いて宿題やレポートを代筆してもらうというカンニング行為が話題となっており、ニュースとなっている。今後、ZENGENGO の機能をさらに用いて学生の英語のスキルを育てていく予定である。

また今年度のFDプロジェクトの成果を非常勤の教員と共有するため、2023年2月1日にZOOMにてミーティングを行い、CASECスピーキングの研究結果について話しをし、今後どのようにオンラインのアプリを利用するのかについて議論をした。またその際、AIの可能性とAIの危険という課題が出てきた。1年前はそれほど意識していなかったことが、突然重要な課題となっていることを実感した。

結論として、今回のオンラインテストとスピーキング能力で、学生がレベルアップしていることを証明できた。しかし課題も残っている。学生はまだ中級レベルにとどまっていることも分かった。テストの結果によると多くの英語コミュニケーションコースの参加者はCEFRの指標でB2レベルとなるというようにテストの結果を解釈できる。そこから上級と思われる学生は推定2名程度である。多くの学生はスピーキング技能を持つようになったが、語彙力が不足しているためさらなる上達を阻止されているということを考えられる。今後、スピーキングの練習をオンラインツールと共に、語彙力も増やし、新たに覚えた語彙を用いてレポートを作成させたり、プレゼンテーションを行なってもらったり、ディスカッションをさらに授業で行うことを実施するように努める。

これで本FDプロジェクトが終了だが、これから同じようなスピーキングの検定を龍谷大学学部共通英語コミュニケーションコースの通常のテストとして導入し、これから学生の表現力などをモニターしていくように新しい予算を見つけ出すことが望ましいと思われる。

CASEC [キャセック]
Computerized Assessment System for English Communication

270万人以上が受験した英語テスト!
400万人の回答により開発!
日本初のアダプティブ(適応型)なテスト!

今すぐ受験する

個人で受験する お客様
団体で受験する お客様

CASECとは?

Point 1 **すぐ測定!**

- 平均試験時間は約40分~50分
- 終了後すぐに結果を表示
- 24時間いつでもオンラインで受験可能

Point 2 **テスト理論に裏打ちされたテストシステム!**

- 株式会社教育測定研究所が開発・運営
- 正確な測定が可能

Point 3 **他英語テストの目安がわかる!**

- TOEIC(R) L&Rスコア目安・英検(R)級目安も表示
- 「詳細なスコアレポート」や「CAN-DOリスト」など、学習に役立つフィードバックが充実

CASEC お客様活用事例

CASEC お客様活用事例
サトーホールディングス株式会社
サトーグループが「超連結経営」を実現するために、本人選定の受検者向けに「適応型」オンライン英語テストの本人選定を「適」で実施

CASEC お客様活用事例
ミス日本酒 (Miss Sake) 「ナデシコプログラム」
海外の人に向けて、日本の魅力を発信できる人を育てたい

CASEC SPEAKING

CASECシリーズに新たにスピーキングテストが加わりました!

CASEC プロクタリング

Webカメラで録画し、本人確認と試験監視を行える英語テスト

詳しくはこちら

おすすめ